

MACF 礼拝説教要旨

2020.01.12

「主の祈り」その1

マタイによる福音書6章

6:9 だから、こう祈りなさい。『天におられるわたしたちの父よ、御名が崇められますように。』

6:10 御国が来ますように。御心が行われますように、天におけるように地の上にも。

++++

ローマの信徒への手紙を講解しようと思っていますが、その前に、主の祈りを話しておきたいと心に感じるものが

あり、主の祈りの説教のあとで、ローマの信徒への手紙の学びに入っていこうと思います。

今朝は主の祈りの学びの第一回目です。

この祈りは弟子たちに対してイエス様が教えた祈りです。

そして、イエス様は祈りについて、その前の箇所、マタイによる福音書6章5節からのところで、こう教えています。

6:5 「祈るときにも、あなたがたは偽善者のようになってはならない。

偽善者たちは、人に見てもらおうと、会堂や大通りの角に立って祈りたがる。

はっきり言うておく。彼らは既に報いを受けている。

6:6 だから、あなたが祈るときは、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、

隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。

そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる。

6:7 また、あなたがたが祈るときは、異邦人のようにくどくどと述べてはならない。

異邦人は、言葉数が多いければ、聞き入れられると思っ込んでいます。

6:8 彼らのまねをしてはならない。

1) 人に聞かせるための祈りをしないように、上手に祈って人を感心させようと思わないほうが良い

2) 奥まったところで、隠れたところにおられる父なる神に祈りなさい。人に知られる必要はない。

3) くどくどと祈る必要もない。

そして、祈りの言葉を直接教えていただきました。

今朝は最初の部分。

『天におられるわたしたちの父よ、御名が崇められますように。』

6:10 御国が来ますように。御心が行われますように、天におけるように地の上にも。

++

共通口語訳の主の祈りでは

【天におられる私たちの父よ

御名が聖とされますように

御国が来ますように

御心が天に行われるとおりに 地にも行われますように】

となっています。

1) 天の父に祈る

まず、私たちの祈りは呪文ではありません。お題目でもありません。祈りは神様との会話です。

「天におられるわたしたちの父よ」と祈りの対象者がおられます。

「天の父なる神」こそ、私たちの祈りの対象者です。

「父」に対してあまり良いイメージを持ってない方もおられるかもしれません。

放蕩息子の箇所のときにちょっと触れましたが、天の父なる神様と呼ばれるお方は、性格的には「母親」のような面を持っています。そして、父という言葉には「保護者」という意味があります。

天におられるわたしたちの永遠的な保護者である神様、に祈るわけです。

2) 御名が崇められますように

「御名」とありますが、神の名前は神様の実態を表現するものです。

聖書の中には、いろいろな神様に関する呼び名が出てきます。

*ELOHIM (エロヒーム) 創造者、力ある、強い神 (創世記 17:7; エレミヤ 31:33) 神 (エロヒーム) が仰せられると世界が存在するようになる、という至高の神 (創世記 1:1)

*EL SHADDAI (エルシャダイ) :全能なる神、ヤコブの力ある方。(創世記 49:24; 詩篇 132:2、5) すべてのものの上の神の究極的な力を示す。

*YAHWEH-JIREH (ヤーウェ-ヤイラ) :主は備えて

くださる（創世記 22：14）この名は、主がイサクの代わりに羊をいけにえとして備えてくださった時にアブラハムが記念とした名前。

*YAHWEH-RAPHA（ヤーウェ-ラファ）：肉体的も霊的にも癒す主（出エジプト記 15：26）肉体的には、病気から守り、病気をいやすことで。魂は、罪を赦すことで、いやされる。

*YAHWEH-SHALOM（ヤーウェ-シャロム）：「主は平安」（士師記 6：24）-ギデオンが主のみ使いを見た後、祭壇を築いて主のみ使いを見たので死ぬかと思ったとき、み使いが死ぬことはないと確信させたのでギデオンがつけた名前。

*YAHWEH-SABAOTH（ヤーウェ-サボアス）：「万軍の主」（イザヤ 1：24；詩篇 46：7）万軍とはみ使いと人間との軍勢のこと。神は、天と地上の住民、ユダヤ人、異邦人、裕福な者も貧しい者も主人も奴隷も含めて、すべての軍勢の主である。

などなど。

すべての人が、父なる神を、これらの名前通りのお方として信頼し、そういう神として礼拝をささげますようにという祈りです。

3) 御国が来ますように

御国とは、天国のことでもあるので、早くこの地上の生活が終わり天国に入れてもらえますようにという願いも一部分含まれているかもしれませんが、むしろパウロが語った言葉を土台にして考えるとこの祈りはもっと現実的です。

パウロはローマの信徒への手紙の中で

14:17 神の国は、飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです。

と語り、神の国、御国というのは、聖霊による「義・救い・解放」と「平和」と「喜び」という現実味のある出来事だと教えています。

祈りながら、今日、私たちが、神の介入による「解放、平和、喜び」を味わえますようにという祈りなのです。

4) 御心が天に行われるとおりに 地にも行われますように

神の心に沿った出来事が、私たちの日常の中にもたらされますようにという祈りです。

神様の思い通りのことがこの地上に起こされますよ

うに、私の人生の中に起こされますようにという祈りです。

これらの姿勢が養われているでしょうか。

祈りは私たちの願い事を伝えて、あとはよろしく、という伝言とはちがいます。私たちのリクエストも自由に伝える事ができるのです、でも、その前に神様との関係が重要なのです。

神を絶対的な保護者として信頼しているかどうか。

その御方の名前の偉大さ、存在の意義深さを知っているかどうか、その御方を礼拝できること、その御方に知られていることの大きな喜びを知っているかどうか、

神様の介入における「解放、平和、喜び」を期待しているかどうか

そして

神の思いが実現することこそ、わたしにとって最も幸せなことが起こることに通じているのだと信じているかどうか

この祈りは私たちの心を探ってくれる重要な「神との会話」のひとつときをもたらすのです。

内容を理解しながら心を込めて、本気で祈りましょう。

【天におられる私たちの父よ

空の彼方ではなく、万物を支える見えない世界「天」にいて、人の世の低みを見捨てず、絶対的な保護者としてそこにいてくださる私たちの父なる神様

【御名が聖とされますように】

あなたをそのお名前どおり「聖なる愛と恵みにあふれ誠実なお方」であるとすべての人が認めますように

【御国が来ますように】

御国すなわち「救いと平和と喜び」による神の支配が、現実の生活の中にもたらされ、それによって私たちが神と人とを愛しつつ生きられますように。

【御心が天に行われるとおりに 地にも行われますように】

神のおられる天で実現されている神の御心が、この地上でも実現されることを願う心を持てますように